機密二三二〇四八番電　發SAF參謀長　宛軍令部一部長
九州方面人心動揺甚シ進駐地域基地等公表方取計ハレ度
機密二三二〇四九番電　發SAF參謀長　宛佐鎮參謀長
廈屋基地急速整備ノ爲二十四日付解隊予定ノ在廈設營隊ハ當分其ノ
儘トセラレ度
機密二四二〇四番電　發軍務局長　宛省略
内閣ニ於テ廈屋連絡委員會（大海指第五三六号ニ依ルモノト別個）ヲ左ノ
通リ編制ノ事ニ平配中
一、目的　立トシテ廈屋撤退地区ニ於ケル諸設備ニ関スル情報ヲ提供シテ
進駐準備ヲ容易ナラシムルト共ニ要求スルコトアルヘキ進駐ニ應スル基
地整備宿營及休養等ノ交渉斡旋ヲ行フヲ目的トシ豫テ之ニ附隨
スル崇内及接待的事項ニ任ス
二、編成　委員長　草廈中將　委員　陸軍三名　海軍六名（三代大佐、井沢
中佐及主航艦佐鎮五特攻戦ヨリ計四名）外務二名　内務六名
軍需運輸農商遞信各一名　尚委員ハ状況ニ依リ増減スルコトアルヘシ
三、要領
(イ) 現地ニ於テ委員長ヲ指揮シ第一項ノ処理ニ任ス但シ事務的処理ハ
夫々主務者ニ於テ實施ス警備治安維持ニ関係アル事項ニ関シ
テハ現地警備担当指揮官ノ指揮ヲ受クルモノトス
(ロ) 委員所要ノ自動車通訳配置所属ノ掌部ニテ準備ヲスルヲ
原則トス
四、業務ハ八月二十七日開始迄ニ中央ヨリ委員ハ二十七日空路進出ノ予定
五、大海指第三六号ニ依ル海軍委員會ハ本委員會ト一体トナリテ
事務処理ニ任スル如ク取計レ度
廈屋二七一三四番電　發廈屋海軍連絡委員長　宛佐鎮
通報軍務局、大海参一部、SAF

當方面ノ現狀ニ鑑ミ左記急速實施方取計レ度

一、五航艦ヨリ協議ノ通信關係員ノ急派

二、保安隊ノ急派（可成多數トラック使用）

三、自動車（乘用車、トラック）運轉員共軍官民ヲ通シ可成多數ノ急派

四、設營隊特ニ木工ノ急派

五、進駐兵力ニ對スル毛布食料所要員要ス必ズ船便ニテ急派

六、自動車用アルミール可成多數

東通二七一一〇番電　發大臣宛佐鎮長官通報　草廉中將（廉屋基地）

佐鎮長官ハ保安隊一五〇名、小銃、拳銃、輕機、武裝）設營隊二〇〇名陸上輸送隊一隊整備員二〇〇名及基地運營ニ必要ナル工作兵衛生兵主計兵ヲ速ニ廉屋地区ニ派出シ廉屋連絡委員長ノ指揮ヲ受ケシムベシ

廉屋二七　番電　發廉屋海軍連絡委員長宛佐鎮通報（軍務局大海令一部）

廉屋基地燃料車船ト皆無ニ等シ台以上急送方取計度

廉屋二七一三三〇番電　宛大臣總長GB長官

草廉中將本日廉屋着　廉屋連絡委員會事務ヲトル

佐通機密三六一二五八番電　發佐施設廉屋支部長宛廉屋支部總務部長

米海軍進駐ニ伴フ施設ハ極力促進ノ要アリ各地方事務所設營隊兵力資材貨物自動車集結左ニ依リ之ヲ實施スベシ（佐施ヨリノ應援ハ考慮中）

(一)米軍進駐軍士官三〇〇名兵員約三〇〇〇名

(二)施設ハ一部トンネルヲ利用スルモ可

(三)便所浴場等ハ可及的浮式トナス

(四)飛行場ハ使用容易ナル如ク修復ヲ施ス

東通二五二一三〇番電

米国軍ノ進駐ニ関スル聯合国最高司令官要求事項中八月二十六日以後ノ期日ハ天候ノ為メベテ四十八時間繰リ下ケラレタリ

東通二六二〇七番電　發人車課長

八月二十八日附　横井（三八五）三代（一〇九八）高橋（三五四）福原（三五三）井伏（三二七四）西村（三四三〇）田中（三二五三）松尾（ク五〇）山口（レ一五七）

以上九名廉屋連絡委員ヲ命セラル

佐通二八〇九〇番電　發佐鎮宛廉屋聯絡委員長軍務局長通報（大海一部海軍総隊）

一、通信関係員二十五日出發派遣済（外ニ電気補修工員工廠ヨリ派遣済）

二、保安隊一ヶ中隊（先遣隊）二十七日出發外ニ六ヶ中隊ヲ基本トスル保安隊本隊逐次出發ノ予定（糧食一週間分及寝具携帯）

三、派遣兵力作業用「トラック」派遣十台近日中派遣ノ予定其ノ他ノ「トラック」隊乗用車二台外ニ突撃隊ヨリ「トラック」約四台派遣済、進駐軍ニ対スル海軍分担数ニ對シ目下鋭意蒐集中ナルモ逐散セル王、航艦附属車輌ノ集收ニ関シ更ニ努力セラレ度尚蒐集車輌ノ部

ク

四、施設関係兵力幹部二六日二七日「トラック」ニテ派遣残存兵力約三五〇名八三九日列車便ニテ出發ノ予定尚一般作業兵力トシテ突撃隊兵力約三〇〇名巻二五日派遣中

五、進駐軍要求程度不明ニ付目下研究中　但副食ハ主トシテ総監ニテ担任ノコトニ協議済

六、自動車燃料ハ在庫少キニツキ差当リ在廉屋ノ一〇万立ヲ充当スルコトニ致度

佐二八二〇五三番電　發軍務局長宛廉屋連絡委員長

聯合国進駐ニ日延期ハ確實ナリ

廉屋二八二一〇八番電　發廉屋海軍連絡委員長　宛軍務局

通報大海令一部GB佐鎮SNF

二十八日二〇〇〇ニ於ケル廉屋地区整備状況

一、治安概平静トナル、佐鎮保安隊先發一八〇名本夕刻着明朝ヨリ陸軍

及市ト警戒交替ノ予定
二、飛行場二十七日二十八日陸軍兵力×〇〇及一部海軍力ヲ以テ滑走路誘導路前庭彈痕ノ大部完埋修了、陸軍兵力ハ明二十九日夕刻迄協力ノ予定爾後海軍力ニ依リ填圧一部舗装ヲ三十一日中ニハ完了

三、宿舎設備
空廠舎、議所、共済組合病院、工員養成所、教室、旧航空隊本部廳舎ヲ充当予定ニテ清掃、修繕ニ補修開始三十一日概成ノ見込

四、通信
(イ)無線
東京、大分、佐世保ト連絡可能本日佐鎮ヨリ派遣ノ半兵力着
対進駐軍電波調定済
(ロ)有線
隊内使用可能隊外、久留米附近故障ノ為昨日ヨリ不能陸軍線

五、車輌
トラック七台(実動四)今後逐次佐鎮ヨリ到着スルモノ以外急速増加ノ見込ナシ燃料車実動ナシ極力捜索整備中其ノ他使用可能
空廠施設部トラック約一〇〇台アリ
六、燃料概況
飛報ノ通自動車燃料ハ自動車増加ト共ニ急減シ、アリ航空輝発油ノ一部転用ニテ考慮中
七、兵器
飛行機類ノ処理三十一日ニハ完了ノ見込
八、当地附近所在部隊員ノ復旧状況
約一六〇
九、内閣連絡等員
会委員佐鎮以外未着ナルモ各部ト折衝ヲ開始セリ
廉屋ニ九〇七三〇番電、発廉屋海軍連絡要員長
完軍務局長
一、廉屋先遣隊飛行機連絡用電波四四九三(ヨヨコイ)KC準備完成

二、電話要求ノ場合ヲ考慮シ無線電話モ準備シアリ通話距離 一〇〇粁
附近、当地英語文話員ナシ 至急送ラレ度
三、遞信省航空局ヨリ無線交信員八名到着
廈屋二五〇八四一番電 発五航艦長官宛人事局長 通報 SBF参謀長
本職連絡委員長トシテ勤務中 艦隊要務ハ参謀長ヲシテ掌理セシ
ムル西ヤアルニ付連絡委員横井少将ヲ久野大佐ニ変更方取計ラレ度
廈屋二九一〇〇番電 発廈屋連絡委員長 宛軍務局長
當方面現在迄通信不如意ナリシ為近駐ニ関スル情況一切不明 最近ノ
情況至急通報相成度
廈屋二九一二五番電 発廈屋海軍連絡委員長 宛軍務局長
中央委員廈屋派遣日通知ヲ得度
〃 廈屋二九一八〇〇番電 発廈屋連絡委員長 宛軍務局長
一、貴二五一二〇番電関聯四四九五(ヨヨコイ)KC受信(結)四四八五(ヨヨヤイ)KC送信
(註)準備完了
二、先遣隊航空機トノ連絡ハ無線ナリヤ電話ナリヤ又厚木ニ於テ得
スル通信連絡上ノ参考事項知ラサレ度
三、東京「マニラ」間通信一三七四〇KC直接待受ヲ開始ス呼出符号知ラサレ度
廈屋三〇一四二〇番電 発連絡委員長 宛軍務局長 通報(九州地方総監 門司鉄道局長)
廈屋地区米軍進駐ニ對スル諸準備ハ交通ノ不如意ニ依リ著シク遅
延シヤリシガ復旧ト関係員ノ利用ニ對スル便宜供與ヲ焦眉ノ急
トスル状況ニ付極力促進援助方取計ラレ度
廈屋三〇二二三五番電 発廈屋海軍連絡委員長
宛軍務局長大海参一部GB佐鎮SBF
一、治安
(イ)漸次平静ノ度ヲ増シ兵員及市民共ニ帰還数ヲ増加シツヽアリ
(ロ)廈屋市ニテ管理中ナリシ衣糧需品ヲ海軍側ニ接收終了

(ハ)佐鎮保安隊本隊ノ中ハ八〇〇名本三十日佐世保発

二、飛行場清掃作業続行中ナルモ輾圧作業ハ土工労務者ノ不足ノ為本日実施出来ス明三十一日ヨリ開始九月二日迄ニ主滑走路誘導路及前庭ノ大部ハ輾圧完成ノ見込

三、宿舎設備

引続キ作業続行中ナルモ有職工員不足ノ為進捗意ノ如クナラス現状ノ儘ニテハ来駐迄概成困難ナリト認メラルルニ至リタルヲ以テ更ニ近県民間専門工員ヲ動員シ万難ヲ排シ九月二日迄ニ大部ハ粗末宿ヲ概成セシメントス

四、車輌

貨物自動車七、乗用車一、バス二、実動本日陸軍貨物車二九、乗用車八到着(外ニ五〇台未着)燃料車佐鎮四、指宿五、車良一、航空廠一計二一台入手ノ見込ブルトーザー(完否不明)トラクター数台(完否未調査)應急車(起重機車)二(完)救護車一入手見込尚陸軍方面照會中ノ消防車ハ民間等ヨリ若干入手ノ見込右ノ如ク車輌関係ハ準備可能数極メテ少キヲ以テ急ヲ要スル所要数携行ノコトニ折衝アリ度

五、内務省以外ノ各省連絡委員大部来着セリ通訳陸海軍関係約五〇名到着

六、高須及古江海岸場塔準備作業本三十日ヨリ兵力及民力計五〇〇名ヲ以テ急速開始順当ニ進捗シツツアリ

庶屋三一三一五番電　発庶屋連絡委員長宛大海参一部長

貴機密第三一四〇二番電ニ依リ氷路嚮導船派出日時及場所ヲ変更セラレタル処上陸日時ハ変更ナキヤ

庶屋〇一〇〇四番電　発庶屋連絡委員長宛軍務局、大海参一部、佐鎮GB

一、飛行場

本日ヨリ輾圧準備作業ニ引続キ一部輾圧作業ヲ開始セルモ「ローラー」ノ可動数不足ノ為進捗意ノ如クナラス極力整備ニ努メ且徹夜作業ヲ続行更ニ本日夕刻到着セル佐世保設営隊(残リ全部)ヲ使用シ九月三日一杯ニテ前庭ノ四分ノ三ハ輾圧完了シ三日ノ先遣隊ノ收容ニハ充分ナルモ残リ四分ノ一ハ三日更ニ引続キ作業ヲ実施シ完成ノ見込、滑走路誘導路及エプロン(内地部)ハ外地域(芝生)ハ陣痕無数ニシテ地盤モ一般ニ弛ミアリテ絶体ニ飛行機ノ侵入不可能ナルニ付明確ニ通知アリ度

二、宿舎

(イ)充当スベキ宿舎ノ中本部庁舎ヲ除キテハ比較的順調ニ進捗シツツアリ

(ロ)本部庁舎ハ「ガラス」作業遅延シアルモ「パテ」ヲ佐世保ヨリ送ル

シ一挙ニ仕上ケ進駐迄ノ間ニ合ハセントス

三、車輌

米軍ニ充当シ得ルモノ現在左ノ如シ

(イ)乗用車八(海軍民間各一〇台未着)

(ロ)トラック二九(海軍三〇民間二〇未着)

(ハ)バス二(鉄道民間手配中)

(ニ)ブルドーザ 使用シ得ルモノナシ(陸軍調査中)

(ホ)トラクター一(陸軍調査中)

(ヘ)起重機車一

(ト)救護車一 明日宮崎ヨリ調査輸送ノ予定(陸軍調査中)

佐世保ニ手配中

(チ)消防車一(陸軍ノ民間ニ手配中)

右ノ如ク使用シ得ル車輌極メテ少ク故障ヲ起シ部品ナク修理

困難等モ豫想サルヽニ付米軍ニテ極力持参スル如ク折衝アリ度

四、宿泊設備

(イ)毛布及蚊帳ハ入手可能ノ見込

(ロ)寝台三〇〇〇名分ハ三日迄ニ極力輸送完了ノ見込ナルモ薬布團

(一三〇〇人平可能 他ハ畳ヲ代用ノ予定

五、右ノ不充分ナル点ヲ除キテハ九月三日先遣隊ノ麻隆着迄ニ之ニ

對スル援助可能ナリ

東通ロ一一六四八番電　　發軍務局長　　宛鹿屋連絡委員長

聯合國最高司令官ヨリ左ノ未電アリ大々的ニ可ク取計ル度

一、從前ニ通報セル鹿兒島灣内諸施設占領後シバシバ航行継續ノ小艦艇燃料

補給ノ為鹿兒島灣ヲ使用スル必要生ズベシ依テ現地軍事當局ニ對シ

所要ノ指令ヲ發セラレ度

二、鹿屋地域進駐ニ関シ行動ノ改正日時左ノ如シ

先遣隊ハ九四五年九月三日主力部隊ハ九月四日上陸スベシ依ツテ日本

船ハ一九四五年九月三日遅クトモ午前六時迄ニ南九州佐田岬ヨリ二七〇度

ニロ理ノ附近ニ於テ合衆國ノ海軍部隊ニ會合シ該部隊ヲ鹿兒島

灣ニ導入スル事ヲ望ム

日本船ニハ通譯官（複數）ト共ニ八人ノ水先案内ヲ準備シ置クベシ

前記指令ハ九四五年八月二十日「マニラ」ニ於テ日本國代表ニ手交セラ

レタル「要求事項」第四節又書第九節ノ條項ニ代ルモノナリ　接受確

認アリ度

東通ロ一一九二七番電　　發大臣　　宛五航艦

八月二〇日「マニラ」ニ於テ我カ方ニ手交セラレタル聯合國最高指揮官要

求事項第三四節ニ依リ九月三日一〇〇〇頃鹿屋基地揚陸スベキ米英

國先遣隊ニ対シ充分ナル安全及援助ヲ與フベシ（大本營ハ聯合國ニ対シ

保障スルノ責ヲ有ス）

鹿屋ロ一一六五五番電　　發鹿屋連絡委員會　　宛終戰連絡委員會

鹿屋方面第一次進駐兵力知ラサレ度

東通ロ一一五五一番電　　發次官次長

本日ロ九〇〇降伏文書ノ調印式ヲアス同日之ニ関スル詔書渙發

セラレ政府大本營布告（降伏文書並ニ一般命令第一號）及之ト関聯

スル大海指第一號發布セラレタリ（内容何レモ別電ス）

済州ロ三〇七三五番電
一、米掃海艇二〇隻ベ米敷設艇一隻ベ二〇日ヒミロ掃海開始セリ
二、本日上陸部隊ヲ伴ヒ居ラス明四日入港ヲ予定ナルコト判明セリ
三、以下略
鹿屋ロ三一二〇〇番電
発鹿屋連絡委員長　宛陸海軍次官次長外務次官佐鎮GB GAF 西部軍 六航空各参謀長
一、二〇〇現在先遣隊未タ到着セス先遣隊ト連絡ナシ各委員飛行場ニアリテ待機中
二、米海軍掃海艇十隻駆逐艦一隻済州嶺道ノ下ニロヒロ頃ヨリ掃海ヲ實施シタル上一一〇〇頃高須及古江海岸附近行動中
鹿屋ロ三一五〇〇番電　発着信有前電ニ合シ
一、三三〇ダグラスニ機ニテ指揮官シリシ陸軍大佐(N.D. SILLIN)外將校七名下士官兵六名計一四名着
鹿屋ロ三三三〇番電　発着信有前電ニ合シ
一、先遣隊進駐ス無事完了當方面治安確保ニ不安ナシ
二、彼我交渉ハ円滑ニ行ハレ重大ナル問題ナシ
三、鹿屋飛行場及掩体地道ノ大部ヲ米軍專用地域トシ一切ノ日本人ハ右区域内ヨリ撤退ノコトニ決定但シ居住民ハ僅ナリ
四、明四日ノ進駐ニ関シテハ詳細不明ナルモ早朝ヨリ輸送機一〇〇及至一五〇機来着又一〇〇〇頃高須方面ヨリ上陸開始(戦車ナシ)進駐兵力ハ約二五〇〇名ノ予定
済州ロ三二〇番電
明四日米軍上陸部隊ニ関シ知得セル事項左ノ通リ
指揮官「ゼンセン」大佐(駆逐艦五五一隻搭乗)
一、上陸海岸ハ不明ナルモ鎮地ハ高須沖ノ模様「ゼンセン」大佐明日決定ス

二上陸用輸送船中判明シアル船名九六五〇トン六七四〇トン五五五〇トン一〇三九〇トン
八三〇〇トン計五隻（戦車ハ有セサル由ナリ）
清州ロ四ロ六三〇番電
ロ三三〇船團ト合同ロ六三〇御導開始ロ九ロロ着ノ予定
船團上陸用舟艇六其ノ他海軍十艘計十五隻
東通ロ三一九二〇番電
発軍務局長　宛鹿屋連絡委員長　通報佐鎮参謀長
一、鹿屋方面第一次進駐兵力約一五〇〇名ニシテ空輸及艦船ヨリ到着スルモ其ノ日時ハ不明ナリ
二、右一五〇〇名ハ事態推移基地勤務員ニシテ将来別ニ進駐スルコトアルベキモ其ノ兵力及時期ハ未定
東通ロ二二〇三一番電（ロ四二〇三五受信）　発總長大臣　宛部内一般
一般命令第一號ト（陸海軍）略
鹿屋ロ四一三〇四番電　発鹿屋連絡委員長　宛軍務局長
當地ニ於ケル折衝上必要ニツキ既ニ草木横濱ニ於テ連絡折衝ノ結果決定セル協定事項至急ご通知ヲ得度
鹿屋ロ五一九四七番電
発鹿屋連絡委員長　宛陸海次官次長外務次官
通報西部軍　五航艦　佐鎮
一、本日降着セル輸送機約七〇機
二、進駐軍指揮官ハ第一次進駐兵力三五〇〇名ト言明セリ
三、三月二二三〇米俘虜一名大牟田ヨリ長崎経由當地ニ逃亡来レルヲ以テ昨四日三〇〇日本憲兵保安隊通譯各一名ヲ附シ大牟田ニ還送セル旨當地進駐軍指揮官ニ通知シタリ
東通ロ五一六三三番電　発軍務局長　宛鹿屋連絡委員長
貴ロ四一三〇四番電返ツ都度通報シアルモノ外特ニナシ

鹿屋ロ六〇七四六番電　　発連絡委員長　　宛軍務局長　通報佐鎮参謀長

当地進駐軍指揮官ニ対シ鹿児島湾内ニ於ケル一〇〇屯以下ノ舟艇ノ交通漁撈許可ヲ要請セル処中央交渉ニ依ル度旨回答アリ至急御衝解決アリ度

東通ロ六一五五七番電　　発總長　　宛部内一般

左ノ地区ハ聯合軍進駐ノ中尼又ハ諸主要港湾トヲ想ヒセラルルニ付衣住衛生施設（瓦斯水道下水等ヲ含ム）陸上運輸並ニ港湾施設（修復資材ヲ含ム）等ニ関シアラカジメ資材ノ準備ヲシ置キ進駐部隊ト円滑ナル折衝ヲ期セラレ度

東京　横須賀　館山　鹿屋　青森　小田原　札幌　下関　福岡
佐世保　長崎　横須賀　大阪　京都　神戸　名古屋　高知（以上陸上）
長崎　佐世保　阪神　青森　名古屋　仁川　釜山　小樽　東京
横浜　八幡　下関（以上港湾）

鹿屋ロ八一六一五番電

発鹿屋連絡委員長　宛陸海軍次官次長外務次官GB佐鎮SAF長官

（米軍ノ進駐ハ順調ニ実施セラレ第一次進駐ハ概ネ終了セルモノノ如シ）

四日入港セル輸送船荷役ハ六日午後終了七日早朝出港セリ

尚船艇約十隻沖合ニアリ

進駐ニ伴フ金銭物品掠奪ノ小事件ニ三発生セルモ證跡確ナルモノニ対シテハ進駐軍ハ誠意ヲ以テ解決ニ当リツツアリ

労働力提供ニ対スル要求ハ当初打合ニテハ一日三百名程度ナリシモ逐日増大ス

六月下六五〇十日以降八百五十尚増大ノ見込当方千名ヲ目標トシテ地方的ニ準備中

進駐ニ関スル請支渉ハ概ネ一應終了爾今ハ主トシテ警備ト及労力物資ノ提供等ニ直接関聯スル事項トナルヲ以テ委員會

ノ内部機構モ逐次外務省ニ地方總監府縣等ヲ主トスル如ク改編
中ナリ
東通ロ八一五五八番電　宛鹿屋連絡委員長
発軍務局委員
一、連絡委員會ハ逐次内務外務ノ現地機関ヲ主力トスル編制
（全要軍部委員ヲ含ム）ニ移行シ概ネ本月末ヲ之ヲ完了スル度
中央ノ方針ナリ
二、終戰連絡機関トシテハ外務系終戰連絡中央事務局（東京）
地方事務局（横浜、京都）ヲ設ケラレ主要市ノ當地ニハ地方事
務局ノ出張所ヲ置カルヽ予定

文屋〇八一三五番電
宛内閣終戰連絡委員會　發鹿屋連絡委員會
通譯運轉手、人夫等ノ身分取扱特ニ給與ニ関シテハ地方的
事情ヲ考慮ノ上決定スヘキモ今後進駐地域擴大ニ伴ヒ相
互ニ甚シキ懸隔ヲ生セハ不都合ヲ生スヘキヲ以テ中央ヲ大
略ノ標準ヲ示サルヲ適當ト認ムルニツキ至急決定通報
ヲ得度

鹿屋〇八二二五番電
發鹿屋連絡委員長　宛陸海軍次官次長第二総軍
参謀長鎮西参謀長　西部憲兵司令官福岡俘虜收
容所長

一、九月七日進駐部隊本部ヲ左記申入レアリ日本官憲
ハ一切ノ聯合軍俘虜ヲ聯合軍ノ掌中ニ入ラシムヘキ
事ニ関シ一切ノ可能ナル援助ヲ與フヘキコト及本要請ヲ
進セシムル為ニ米軍憲兵二名ヲ鹿屋停車場ニ派遣
シ本地区ニ流入スヘキ俘虜ヲ鹿屋停車場ニ送達
日本側ハ一切之ニ干與スヘカラス
二、從ツテ今後当地トシテハ流入シ来ル俘虜ノ所属氏名
モ直接取調ヘ不能ニシテ将来中央ニ於ケル俘虜引
渡シ交渉ニ種々ノ問題ヲ予想セラルルヲ以テ俘虜ノ無
制限旅行阻止ニ関シテ緊急措置ヲ講スルノ要アルモノト
認ム
三、現在迄ニ本委員會ヲ通シテ進駐軍ニ引渡セル俘虜ハ
四三名ナリ尚九月七日當地ニ到着セル英俘虜一名ハ進駐
軍ノ要求ニ依リ川崎第八収容所ニ送還セリ

東通一〇一八二五番電
發井澤軍務局員 宛鹿屋連絡委員會
連絡委員會ニ要スル一切ノ經費ハ大藏省經費支辨ノ
事ト承知アリ度
鹿屋一二一五五〇番電
發鹿屋連絡委員長 宛臣海軍次官次長外務次官
當方ハ米軍ニ対シテハ誠意ヲ以テ之カ連絡ニ當リツツアルモ
昨十日米軍ヨリ委員會宛米軍ノ指令ニ対シ之ヲ回避
シ又ハ服從セサル事例アリトシ(イ)諸施設ニ関スル重要
ナル書寫眞図ノ所謂焼失(ロ)從前主要地位ニ在リタ
ル人物ノ所謂不在等ヲ擧ケ今後廻避乃至消極的抵
抗ノ行為ヲ續クルニ於テハ當本部ハ聯合国最高司令官ニ
対シ委員會ノ除去ヲ求ムルコトトナル(以下ノ要求アリ未タ当
方面ノ救援並ニ人員資材ノ分散ニ依ル混乱交通通信不
如意等ノ特殊情況ヲ認識セシメ得サルニ依ル處多キモ一
面米軍ノ組織的技術的要求ニ対シテハ更ニ連絡ヲ密ニスル
ノ要アリト認ムル点アリ今後當方ノ実状ト誠意ヲ極力
了解セシムルト共ニ要望ノ実現ヲ速カナラシムル如ク連絡中ナ
ルモ一應念ノ置カレ度
高折衛員トシテ先ニ請求ノ外務省関係者(書記官級二
事務官級二)ノ至急派遣ヲ望ム
鹿屋一一三四五番電
發鹿屋連絡委員長 宛内閣総理連絡委員會
鹿児島縣下離島(種子島屋久島大島等)ニ対シ連絡
(イ)送達ノ要アル處一〇〇〇頓未満ノ機帆船ヲ以テ実
施差支無キヤ

東通一三一四四五番電

發軍務局長　宛鹿屋連絡委員長

書一二一三四五番電返

鹿屋方面進駐軍ノ了解ヲ得タル上実施差支ナキモノト

認ム

鹿屋一二一二四五番電

發鹿屋連絡委員長　宛次官、次長、佐鎮長官、立特戦司令官

進駐軍ヨリ鹿児島湾内ニ於ケル一〇〇噸未満ノ舟艇ノ航

行差支ナキ旨非公式ニ通告アリタリ

東通一四一四五九番電

委員會経費ハ外務省ニテ予備金支出ナリ詳細ハ追テ

外務省ヨリ指示アル筈ナルモ其レ迄ハ手持金ヨリ支弁相成

度総務課長了解済　土屋事務官

鹿屋一二一七二一番電

發鹿屋連絡委員長　宛大本営陸海軍部次長　陸海外内

務各次官　佐鎮ニ総鎮西九州総監庶

米兵ニ依ル金品盗難事件ハ高須古江方面ニ若干發生

シ其ノ大部分ハ軍ナル好奇心乃至ハ墓集癖ニ基因スルモノ

ト思料セラルルモ左記二件ハ明ニ現金窃取事件ト同サル

ルヲ以テ事件経緯並米側ノ態度ニ関シ概要報告ス

高須郵便局事件

(イ) 九月五日高須郵便局保管ノ現一万二百二十五円二十銭及

切手類(五円六〇〇枚四十銭八一〇〇枚五十銭六〇〇枚)柱時計四箇

時計各一箇窃取セラレアルヲ久刻ニ至リ發見ス

(ロ) 委員會ハ右報告ニ基キ直ニ進駐軍機動部隊司令

官シリン大佐宛抗議ヲ提出ス

(ハ)之ト相前後シ高麗附近ヲ巡視シアリシ進駐軍輸送補給
係ヲオスボン大尉ハ偶ニ本件ヲ聞知シ直ニシリン大佐ノ指
示ヲ仰キ徹宵調査ノ上出航直前ノ輸送船ノ停止ヲ命
シテ検索セル結果現金(略)切手(略)発見本委員会ヲ通
シテ前記郵便局ニ返還シ未レリ尚船中ヨリハ衣類金
類煙草、女下駄アルバム其ノ他雑品多数ヲ発見ス
(以下略)

東通一四一三一六番電
発軍務局長 宛各鎮各警備参謀長 鹿屋連絡委員長
連絡委員会ニ於テ使用スル通譯ノ身分給與ニ関シ中央終戦事
務連絡委員会ニ於テ左ノ通リ決定ヲ見タリ
一、事務外務者嘱託(奏任又ハ判任待遇)又ハ雇(臨時勤務者ハ
臨時嘱託又ハ雇)
二、給與 経歴能力ニ依リ月給一〇〇円乃至二五〇円(臨時勤務者ハ
日給五円乃至一〇円)右ノ外勤務振ニ應シ適當ニ精勤手當
ヲ給與ス
三、支拂場所 東京中央事務局 地方現地機関

東通一五一三五三番電
発軍務局長
羽田飛行場使用不能(米側ニ引渡シトナリタルニ付南今
板戸陸軍飛行場使用ノコトニ承知相成度
佐通一五一七五〇番電
発日本銀行福岡支店長 宛進駐軍鹿屋連絡本部吉海大蔵省
監督官
駐屯費振込金額一三五万円
振込先 鹿児島興業銀行鹿屋支店出官

「SECOND LIEUTENANT GORDON W. RIGHT」
（セコンドリエウテナント　ゴルドン　エル　ライト）
南右ノ旨日本銀ノ鹿児島支店ヘ連絡アリ度
十六日鹿屋発信ノ
(一)鹿児島縣下南島交通ハ中　史交持ニ依ルヘキ日ノ電
(二)解放停虜等ニ関スル電
右颱風時電信室倒壊時紛失
東通一七一四五〇番電
発軍務局長　宛鹿屋連絡委員長
本日附内閣総理ニ依リ山路公使現地到着時ヲ以テ鹿屋
連絡委員長ノ事務ヲ同公使ニ引継ク旨発令セラレタリ
同公使明十八日〇八三〇列車便ニテ東京発ノ予定
東通二二一九一三番電

発軍務局長　宛鹿屋連絡委員長各鎮各警備隊
一、進駐軍ニ対スル地方連絡機構左ノ通リ
(イ)軍及軍團進駐地ハ地方事務局ヲ設置局長ニハ外務省
ノ高等官ヲ配シ関係各官廳（部隊）ハ所要連絡官ヲ之
ニ派遣ス
(ロ)師團以下ニ対シテハ縣廳（小倉方ニ対シテハ地方事務所警察市
役所）中心トナリテ之ニ対処シ関係各官廳（部隊）ハ之ヲ
援助ス
二、現在連絡委員會ヲ編成発足シタル向ハ進駐一段落後
逐次右ニ移行スルモノトス
東通二二四〇九三二番電
発軍務局長　宛　総理局長
一、聯合軍進駐ニ「日」号円標示補助貨及従来ノ円通

貨(政府紙幣紙貨ヲ含ム)ヲ使用スベク其ノ必要トスル円貨ハ進駐軍最高司令部「エーデルマン」中佐ヘ金融主務者ニシテ日本銀行ニ口座ヲ有スル指示ニ基キ指定銀行ニ於テ同中佐指定ノモノニ交付スルコトニ定メラル

二、内地ニ於テハ米国通貨ヲ含ム一切ノ外国通貨及日本側発行ニ斯ル軍票占領地通貨ノ流通並ニ細部取引ニ於ケル之等通貨ノ授受禁止セラレ居ルニ付進駐軍側ヲ之等ノ通貨ノ両替ノ要求ヲ受ケタル場合ハ之ニ應スル事ナク期日場所宛部隊名等ヲ中央当局ニ通報サレ度 但シ已ヲ得サル場合ニハ日本銀行代理店等ヲ指定シテ部隊代表者任務所要ノ円通貨ヲ一括受付セシメ同部隊及銀行ノ双方ニ於テ「エーデルマン」中佐ニ対シ所要ノ整理手續ヲ取ラシメル様取計ヒ度

大分二一〇八ハロ番電

発 鹿屋連絡委員長 宛 陸海軍次官 次長 外務次官 外務省 長官

十七日鹿屋地方猛烈ナル颱風通過ノ為相当大ナル被害アリ電力電信電話全部不通未タ復旧ノ見込立タス進駐軍ニ於テモ飛行機及船舶ニ相当ノ被害アリ当基地電力復旧迄選要信共不能重要電報ハ大分ヨリ使送ノコトニ取計ヒ度

東通三一五四五番電

発 海軍大臣

一、九月十九日附貴合国最高司令部ヨリ海軍保安隊解隊ニ関シ左ノ要旨ノ通告ニ接セリ 日本海軍保安隊ヲ一九四五年十月三十日迄ニ完全且徹底的ニ解隊スベシ

用右警戒ヲ要スル食糧及衣類ノ倉庫ハ民間警察ニテ警戒スヘシ其ノ日迄ニ聯合軍ニ移管シ得サリシ兵器弾薬モ民間警察ニ依リ警戒スヘシ

一、各艦警戒隊ニ於テハ右期間迄ニ全海軍保安隊ヲ解隊スルト共ニ兵器弾薬及衣糧等ノ保管監視ヲ警察ニ移管スヘシ

鹿屋二五一四一〇番電　発鹿屋連絡委員長　宛佐鎮長官

貴三三一三四五番電返九月二十日六〇〇二十五日五〇〇月末迄ニ残リ全員解員(一部復員)ノコトニ予定シアリ

鹿屋二五一四五〇番電　発鹿屋連絡委員長　宛佐世保施設部長軍需部長

鹿屋航空隊及航空廠内腰埋施設艀管理者ニ至急

急派遣アリ度

鹿屋二五一四四五番電　発鹿屋連絡委員長　宛軍務局長

鹿児島県下南方離島運航計画左ノ通リミツキ至急

折衝方取計ラフ度

一、使用船舶、航路

(イ)金十丸(五七三屯定員八〇〇貨物一八〇〇屯)チーゼル鉄船速力八節航路往航鹿児島中ノ島早町湾古仁屋亀徳和泊奥ノ島復航ハ往航ノ逆一往復所要日数八日

(ロ)十島丸(一五五屯定員三〇〇貨物一〇〇屯)チーゼル鉄船速力六節航路往航鹿児島竹島硫黄島黒島口ノ島中ノ島臥蛇島平島スワセ島悪石島宝島古仁屋復航ハ往航ノ逆一往復所要日数十日

二ヶ月乎定航海回数
金十丸ニ航海　十島丸ニ航海
三、軍輸送物件
(イ)食糧米一ヶ年約五千屯
(ロ)人員約五〇〇〇人（陸海軍復員者及ビ帰従業員帰還者）
(ハ)其ノ他塩　菓品　銀行券等
鹿屋ニ六一六三七番電
発鹿屋連絡委員長　宛　軍務局長
一、本日送受信復旧
二、山路公使未タ到着セス行動知ラサル度
三、当方面颱風被害相当甚大ニシテ電纜及水道ハ大部
復旧セルモ尚電話等ハ復旧ニ相当日数ヲ要スル見込
東通ニ六一八〇七番電

発軍務局長　宛　各軍務部長　各謀長　航空廠長
進駐米軍ニ於テハ武器等接収ノ為十日初頭以後各地
ニ担任機関ヲ特設シ急速処理ノ準備ヲ進メツツアルニ付
関係各部ニ於テハ右ニ應シ遅滞ナク引渡ヲ完了スル様
予配シ置カレ度
東通ニ七一七五二番電

発軍務局長　宛　鹿屋連絡委員長
山路公使ニ十五日京都発列車ニテ赴任
鹿屋ニ七一六四五番電

発鹿屋連絡委員長　宛　陸海軍次官　外務次官
GK佐鎧　GK長官
一、当基地進駐軍指揮官ハ佐官クライ大佐ハ北海道及青
森方面ニ進駐スルコトト十月二十八日出発ノ予定ナリ

後任者ハキャプマン大佐（第五航空隊）沖縄ヲ既ニ到着
済ナリ
二、山路公使明二十八日二〇〇着中定
三、進駐軍数日前ヨリ下士官兵ニ対シ昼夜共市内自
由外出ヲ許可セリ今ノ處大ナル事故ナシ市内遊廓ヲ
進駐軍専用トシテ提供シ更ニ別箇所ニ専用
慰安所ヲ設置スル旨ナリ　以上

外務省

聯合進駐軍連絡委員會報　第一號　九月十二日

第一　終戰連絡中央事務局殿

委員長

一　情報

イ、最高司令部指令書添付

ロ、九州總監府ニ於テ関係官廳関係市長ヲ招集聯合軍最
司令部指令書交付ニ伴ヒ海軍側ヨリ鹿屋ニ於ケル進駐艦
總監府官房主幹ヨリ神奈川縣進駐狀況等ノ説明ヲ
副總監ヨリ今迄ノ經驗ニヨレバ進駐軍連絡委員會設置ノ
必要ヲ認ムル旨ノ開陳アリ縣ニ於ニハ左記ノ関係者ニ明十三日午
后一時ニ分縣參事會室ニ參集方ヲ申ス
西部軍　飯野參謀　海運局佐々木港務課長　總監府　鈴木副參謀
海軍　吉住參課　遞信局管理部　浅尾業務課長　山本副參謀
憲兵司令部　柳瀬少佐　遞信局　本田業務部長　福岡市長
第四港湾建設部　片岡工務課長　鉄道局　中村總務部長　北九州各市下関市

A'1·0·0·2第二巻

聯合軍最高司令部指令書

聯合進駐軍ハ日本帝國政府中央連絡委員會ニ對シ下關、福岡、間ノ地域竝ニ便宜ノ供與方ヲ要求ス

一、聯合軍最高司令官代表ニ依リ撰擇セラレタル次ニ述ベル諸設備ト便宜ヲ下關ー福岡地域ニ於テ進駐軍ノ到着ト同時ニ使用シ得ル樣取計方要求スルモノナリ

聯合軍最高司令官代表ハ諸設備便宜ノ適否ノ偵察ト檢閲ヲ九月十五日頃ヨリ開始ス可シ

指示サレタル諸便宜ヲ熟知セル二十人ノ官憲ト『ガイド』ガ其レニ必要ナル輸送車ト通譯ト共ニ當日竝ニ其ノ日以後此等ノ代表者ニ同伴シ得ラレル樣希望ス

二、設備便宜

a 飛行場

福岡縣

總テノ設備便宜ヲ其ノ儘トス

b 港灣

長サ四五〇呎 吃水三〇呎 船ノ碇泊地最少限三ヶ所

長サ二〇〇呎 吃水二二呎ノ碇泊地三ヶ所

吃水六呎ノ浮用突出棧橋三ヶ所

吃水三四呎ノ油槽船用燃料積上突出棧橋一ヶ所

c 石油貯藏庫

最少限十一萬五千（米）噸ノ收容力及燃料用突出棧橋又ハ埠頭トノ連絡設備トヲ有スル

陸上荷集積所

d 宿舍ー司令部職員用

(1) 十名以上ノ將官ノ爲メノ相應ナ設備竝ニ裝具ヲ有スル適當ナルホテル又ハアパート

0171

A'1·0·0·2第二巻

(2) 五百名以上ノ士官ノ爲メノホテル設備又ハ之ニ準ズルモノ

e 宿營地及バラック建築物、進駐軍ノ爲メ必要ナ範圍

f バラック宿舍、兵員一名ニ付キ六十平方呎ノ基礎ニテ計算シ一千名ヲ收容シ得ルモノ三棟建カ三ツニ仕切リ得ルモノ

（但シベット寢棚及寢具附ノ必要ナシ）

g 隔離セル露營地　二千名程度ノモノ

h 病院一基ニ付キ百平方呎ノ余裕ヲ有スル寢臺　三千五百臺

i 事務所用地、事務所用トシテノ設備裝具ヲ完備スル三五萬平方呎ノ地所

j 自動車溜用地　地均シ濟ノモノ二〇萬平方呎

k 有蓋倉庫　二二萬平方呎

L 無蓋倉庫　七〇萬平方呎

m 作業場（修理工場）一六萬平方呎

n 冷凍倉庫　二四萬四千立方呎

o 輸送設備

乘用自動車　五〇臺

トラック一噸又ハ二噸ノ積載量ヲ有スルモノ

p 通信施設

有線、ラジオ、電話等ノ設備ハ聯合軍最高司令官ノ代表者ノ要求ニ應ズルコト

q 公共施設

電力、電燈、水道、煖房、衞生施設其ノ他ノ諸施設ハ茲ニ記載ノ凡テノ設備ニ必要ナリ

r 建築資材及器具

木材、セメント、瀝青、砂利、道路、其ノ他ノ資材及用具ヲ必要トス

s 勞力

福岡縣

0172

A'1·0·0·2第二巻

組織立ツタ監督ノアル勞働力ガ必要ニ應ジテ提供サレル樣準備シテ置クコト

三、上記建物設備等凡テガ進駐聯合軍ニ移讓サル場合ニハ清潔ニ衞生的ニ使用目的ニ副フ樣ニ又直チニ作業ガ出來ル樣ニ準備シ置キ特別附言シタルモノハ其ノ通リニ設備シテ置クコトヲ要ス、自動車ハ有資格運轉手ヲ配シテガソリン其ノ他ヲ充分ナル活動ニ任ズルモノヲ用意シ置クベシ、燃料其ノ他ノハ進駐聯合軍ガ之等ノ乘物ヲ使用スル期間中支給サルベシ

一九四五年九月九日

最高司令官ノ命ニヨリ

署名　ハロルド　フェヤー

米陸軍中佐

軍務局次長

福岡縣